

めぐみイエス・キリスト教会

2022年5月29日(日) 第五主日礼拝
週報「通算第610号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌458「光の高地に」 p. 734

【交読文】 No.19 詩篇第51篇(抜粋) p. 893

【賛美Ⅱ】 新聖歌505「主われを愛す」 p. 807

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.16「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書15章9節～12節(新約p. 216)

【礼拝説教】 《私があなたがたを愛したように》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書15章9節～12節)

15:9 「父が私を愛されたように、私もあなたがたを愛しました。私の愛にとどまりなさい。

15:10 私が私の父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたも私の戒めを守るなら、私の愛にとどまっているのです。

15:11 私の喜びがあなたがたのうちであり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになる為に私はこれらのことをあなたがたに話しました。

15:12 私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これが私の戒めです。」

●ポイント1. 「主イエスが愛しておられた弟子」とは？

※ヨハネの福音書13章23節「最後の晩餐において」(新約p.212下段)

13:23 弟子の一人がイエスの胸のところまで横になっていた。イエスが愛しておられた弟子である。

●ポイント2. 「最後の生き残りの使徒(長老)ヨハネの証言」とは？

※第 I ヨハネ4章7節～11節「愛について」 (新約p.483上段)

4:7 愛する者たち。私たちは互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛がある者はみな神から生まれ、神を知っています。

4:8 愛のない者は神を知りません。神は愛だからです。

4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。

4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

4:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。

◎先週の礼拝メッセージの概要【入獄の結末】

《さて、夜が明けると長官たちは、「あの者たちを釈放せよ」と警吏たちを看守の下に遣わします。なぜ、パウロとシラスが釈放されることになったのでしょうか。むち打ちの刑で、すでに処罰が終わったからか、あるいは多くのローマ人と面識のある紫布の商人リディアが、二人の釈放に力を貸したことです。ここから、なぜリディアが選ばれたのかが分かります。

昨夜、ピリピの牢獄の看守と部下全員にリバイバルが起こりました。「先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか」「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」この言葉は預言です。家族の救いも、また部下たちの救いも、この看守の態度如何にかかっていたのです。彼ら全員が信じてバプテスマを受けたのです。その後、看守はパウロとシラスを自分の家に連れて行きます。すると、看守の妻と子どもたちも救われて、彼らもバプテスマを受けるのです。後にパウロは、この家の教会に再三訪れることとなります。

パウロとシラスは食事の持てなしを受け、そしてまた牢に戻ります。これは、牢内の部下や見張りの兵士たちの為だけではなく、地震が起こった時に、逃げだそうとはせずに、留まった囚人たちの為でもあるのです。私は、この囚人たちの中にも、救われる者が起こされたと信じています。

さて、ここで初めて、パウロとシラスは自分たちの身分を明かします。「ローマ市民である私たちを、裁判も行なわずに公衆の前でむち打ち、牢に入れました。それなのに、今ひそかに私たちを去らせるのですか。長官たち、彼ら自身が来て、私たちを外に出すべきです。」と。

ローマ市民権とは、皇帝によって富者や社会的地位のある者に授けられた、と言われていています。ところで、なぜこのタイミングにおいて、パウロとシラスは、自分たちの身分を明かしたのでしょうか。これも、他の囚人たちの為なのです。神様は、長官たちが牢にはいり、囚人たちの見ている前で二人に謝罪し、牢から解放することをあえて演出させたのです。》

◎お知らせ

※6月5日(日)の第一主日礼拝は、ペンテコステ記念礼拝となります